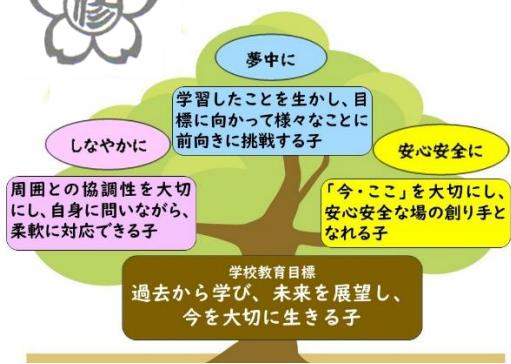




たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和7年 10月1日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.37

差を受け入れて楽しむ

やっと朝晩過ごしやすくなりました。（「やっと」という言葉が書いていてしっくりきます。）先日は、参観懇談会にご参加いただきありがとうございます。懇談会に参加いただいた保護者の皆様には動画でもお話しした内容と少し重複しますが、大切なことだと考えているのでここでも再度残しておきたいと思います。

先日、ある外国の方と道徳についてお話する機会がありました。その中で印象的だったのが、「差が悪いのではなく、差を受け入れ、楽しむことが大切だ」という言葉です。この考え方は、子どもたちに伝えたい人権教育の本質に通じるものだと感じました。（もちろん我々大人にもですが。）私たちは日々、様々な「違い」に囲まれて生活しています。言葉、文化、考え方、感じ方、見た目、得意なことや苦手なこと…。それらの違いは、時に戸惑いや誤解を生むこともあります、実は心を豊かにする大切な要素です。なぜ、違いについてそのように感じているのかと言うと私自身絵本が好きなのですが、実は好きな絵本には内容や絵に偏りがあります。それはそれで楽しんでいるのでいいのかもしれません、好きと言う枠組みだけで進んでいるとそれ以上の広がりは望めないと考えています。だから、パワーがあるときはあえて「この題名読みたくないな」とか「あまり好きな絵のタイプではないな」と思う絵本を読むようにしています。そうすることで違いを認識して、今の自分の考え方を見つめることによって、自分の考え方の幅が広がったり、深またりと実感できることがあります。このような経験を繰り返していくことで考え方の違いが面白く思えてくるのです。国語の教科書に書いている金子みすずさんの「わたしと小鳥とすすと」の詩の中で「みんなちがって みんないい」という言葉がありますが、まさしく心を豊かにすることを捉えた言葉だと感じています。

「違いを楽しむ」とは、違いに興味を持ち、面白がり、そこから学ぼうとする姿勢です。これは、子どもたちだけでなく、私たち大人にも求められる姿勢ではないでしょうか。大人がいろいろな違いを前向きに受け止め、楽しむ姿を見せてることで、子どもたちも自然とその姿勢を身につけていきます。「違いは力になる」と信じて、まずは「面白いな」「おもしろそうだな」と感じることから始めてみるのもいいなと思います。

ご家庭や地域でも、ぜひ「違いを楽しむ」視点を大切にしていただければと思います。子どもたちが安心して自分らしくいられる環境は、私たち大人の姿勢から生まれます。差というのはどういうときに感じるものなのかななど我々も考え続けることで目の前にいる人（子ども）の捉え方が変わります。捉え方の幅が広がると心に余裕もできます。差を楽しみながらこれからも、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの心を育んでいきたいものです。



どんなときに差を感じますか？